

## 事務事業計画書兼評価表(A表)

### 1 事務事業に関する基本情報

				令和	4	年度
事業番号	40		事業名	移住定住推進事業		
担当課	企画課		担当係	地方創生推進係	担当者	山田 健吾
総合計画に最も関連ある施策	施策	5	活力ある産業づくり(産業、観光、雇用)		連絡先	0858-76-0213
	施策体系	4	連携・交流の推進		事業区分	<input type="checkbox"/> 新規
	主な事業	地域性を生かした交流促進(移住定住相談会や交流イベント開催の充実、移住定住相談員の配置)				<input checked="" type="checkbox"/> 継続
予算区分	款	2	総務費		事業実施主体	<input checked="" type="checkbox"/> 八頭町
	項	1	総務管理費			<input type="checkbox"/> その他
	目	4	企画費		計画期間	開始
	事業	40	移住定住推進事業			終了

### 2 事務事業の概要

事業の対象	誰(何)に対してこの事業を行うのか記載。 移住推進: 町外居住者 定住推進: 町内居住者					
事業の目的	誰(何)をどうするためにこの事業を行うのか記載。 都市部等からの転入者の増加及び町内からの転出者の減少を図るため。					
事業の内容・手段	事業の規模や業務量など、どういう方法、手順で事業を進めるのか、具体的に記載。 移住定住相談の対応、各種移住イベントでのPR活動、空き家バンク制度の運営、移住体験施設「おためし住宅」の運営、空き家改修・住宅リフォーム助成の実施により、移住定住推進を図る。					
事業の成果到達点	どんな成果を得たいのか、または、何がどうなれば達成か、具体的に記載。 転入超過等により人口減少を抑制する。					
根拠法令等	4	1. 法令(義務) 2. 法令(任意) 3. 条例 4. 規則・要綱等 5. なし			法令等名→	各補助金交付要綱、八頭町空き家バンク実施要

### 3 活動指標、成果指標

活動指標		単位	事業の手段を図るものさし			
	A	回	移住相談イベント参加回数			
	B	件	空き家改修・住宅リフォーム助成件数			
	C					
成果指標		単位	事業の成果、到達点を図るものさし			
	A	人	人口の社会動態(転入者数-転出者数)			
	B					
	C					
D						

### 4 コスト

区分	単位	R1年度	R2年度	R3年度		R4年度		R5年度
		実績	実績	目標	実績	目標	実績	目標
活動指標	A	回	6	4	6	5	6	6
	B	件	26	11	8	18	9	16
	C							
	D							
成果指標	A	人	△ 106	△ 96	0	△ 93	0	△ 116
	B							
	C							
	D							
トータルコスト	千円	19,563	12,961	16,215	15,574	13,155	22,905	28,468
担当職員数	人	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4
職員人件費	千円	3,200	3,200	3,200	3,200	3,200	3,200	3,200
事業費	千円	16,363	9,761	13,015	12,374	9,955	19,705	25,268
事業費財源内訳	国庫支出金(交付金・補助金)	千円	785	600	750	650	750	0
	県支出金(交付金・補助金)	千円	4,006	2,158	2,900	4,944	3,000	12,225
	地方債(借入金)	千円	0	0	0	0	0	0
	事業収入(使用料・参加費等)	千円	24	255	150	84	150	150
一般財源(単町費)	千円	11,548	6,748	9,215	6,696	6,055	19,705	12,893

## 事務事業計画書兼評価表(B表)

### 5 実施活動内容・成果(到達点)

令和 4 年度

実施活動内容・成果(到達点)	<p>実施活動内容(具体的に)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・東京・大阪・オンラインで開催された移住定住イベントに計6回参加し、移住検討者への情報発信、相談対応を行った。</li> <li>・補助要件を拡充した「八頭町空き家利活用流通促進事業補助金」を新設し、移住定住者の住環境の整備を支援した。</li> <li>・移住定住支援体制の充実を図るため、「八頭町移住者受入組織・団体創出事業補助金」を新設し、空き家のサブリースや移住相談に取り組む1団体の立ち上げを支援した。</li> </ul> <p>成果(具体的に)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和4年の社会動態は△116人(転入者数319人-転出者数435人)。近年、その差が縮まりつつあったが一転し拡大している。</li> <li>・県内の社会増減率(対1,000人比)をみると、最も減少した若桜町の17.17%に次いで2番目の7.45%の減であった。</li> </ul>
----------------	---

### 6 事務事業の評価

評価項目	評価点	点数	チェックポイント	判断理由・評価コメント(具体的に記入のこと)
<b>必要性</b> (町民ニーズ)	<b>20</b>	20	①必要性が高い	・行政サービスの低下、集落機能の低下等、人口減少が町民に与える影響は幅広く、町民の関心も高い。
		13	②どちらかと言えば必要性がある	
		7	③必要性が低い	
		0	④必要性がない	
<b>妥当性</b> (町が行わなければならないか)	<b>20</b>	20	①町が行わないといけない	・移住相談業務は採算性が低く民間参入が期待できない。人口増加による税金・歳入の確保、行政サービスの維持のために町が率先して行う必要がある。
		13	②どちらかと言えば町が実施	
		7	③妥当性が低い	
		0	④妥当性がない	
<b>効率性</b> (コスト削減の余地は無いか)	<b>13</b>	20	①効率的である	・各種補助金には、鳥取県補助(鳥取県空き家利活用流通促進事業2/3、鳥取県移住定住推進交付金1/2等)を活用している。また、ふるさと鳥取県定住機構が委嘱する「とっとり暮らしアドバイザー」の活用等によりコスト削減を図っている。
		13	②どちらかと言えば効率的である	
		7	③どちらかと言えば非効率的である	
		0	④非効率的である	
<b>緊急性</b> (他事業に優先し実施する必要があるか)	<b>20</b>	20	①緊急性が高い	・人口減少は全国規模の喫緊の課題である。また、コロナ禍の収束に伴い強まる東京一極集中へ早急に対応する必要がある。
		13	②比較的緊急性がある	
		7	③緊急性が低い	
		0	④緊急性がない	
<b>成果</b> (目的の達成状況)	<b>7</b>	20	①成果が上がっている	・前項の成果のとおり、依然として転出超過の傾向が変わっておらず、県内でも高い減少率となっている。
		13	②どちらかと言えば上がっている	
		7	③どちらかと言えば上がっていない	
		0	④成果が上がっていない	
<b>合計</b>	<b>80</b>			

### 7 町の方向性・方針

事業の方向性	問題点及び今後の課題・方向性
1 拡充する	<p>(事業活動に当たり、一番の問題点として捉えていること。重点的に手当てする事柄、改善点、工夫したい箇所)</p> <p>・年間100件以上の移住相談(主に空き家を探す目的)が寄せられる一方で、空き家バンクとして紹介できる物件は10件程度と、大きな機会損失がある。利活用できる空き家の掘り起こしと、その利活用の金銭的・心理的ハードルを下げる支援を行っていく必要がある。</p> <p>(上記問題点を解決していくため、次年度どんな活動を展開していくのか)</p> <p>・空き家利活用のボトルネックとなっている家財道具処分に対する補助金の新設。                  ・空き家のサブリースに取り組む民間団体の立ち上げを支援し、修繕なしで住める住まいの確保を図る。                  ・空き家予備軍の高齢者に対する啓発活動を行い、空き家の掘り起こしに努める。                  ・「0円空き家バンク」「空き家バンク事前登録制度」等の先進事例を研究し、更なる空き家利活用の推進を図る。</p>
2 改善・効率化し継続	
3 現状維持	
4 見直しの上縮小する	
5 終期設定し終了	
6 廃止	